

# 日本技術士会 原子力・放射線部会 活動の概要

2021年6月  
原子力・放射線部会

## 原子力・放射線部会活動は...

- 部会員の活動の支援が第一。  
～原子力・放射線部門の技術士として職場内外で活躍してほしいと考え、様々な活動をしています。
  - ① 社会に対する**情報発信、提言の場**の提供  
⇒ 業務上の立場、観点を超えたより**自由な情報発信**が可能
  - ② 企業内での活躍や社会貢献のための**学びの場**の提供  
⇒ 技術士としての**資質（コンピテンシー）の向上**

## 原子力・放射線部会活動は...

- 部会員の活動の支援が第一。
- ③ 技術士として活躍できる場（社会貢献）の提供  
⇒ 技術士の能力の社会への還元、認知度向上、存在感アップ
- ④ 部会員相互、他部会員、講演会講師、地域連携などの人脈形成の場の提供  
⇒ 業務だけでは得られない幅広い人脈とそれによる幅広い視野、技術力の獲得

3

### 部会目標と活動の全体像(1/2)

#### 大目標

- 技術士が社会で生き生きと活躍
- 原子力界全体の健全化と社会からの信頼回復に貢献

#### 中目標

「技術士＝信頼される技術者」ということを社会に定着させる  
＝ 原放技術士のブランドイメージ（能力と信用）の定着

「専門家」としての、「人」としての「技術士」の在るべき姿を一人ひとりが明確に自覚する

#### ● 個人の役割 : 技術士としての自覚

- ・ 『技術士』を知る（PEの特徴と期待、設立答申の期待、Competency）
- ・ 『自分』を知り、創る（自律的にデザインする継続研鑽）
- ・ 『技術士』を語り、見せる（アウトカムは個人から!!）

4

## 部会目標と活動の全体像(2/2)

### ● 部会の役割 : 職能集団としての役割

- ・ 目標と活動 2つの見える化 (活動をoutput ⇒ outcomeへ)
- ・ 学び直しの制度的な支援
- ・ 戦略的情報発信
- ・ 連携の橋渡し、仕組み作り

### ● 具体的な活動の柱

- ・ 人材育成 (社会貢献、学び直し)
- ・ 認知度向上 (社会貢献・制度的活用前提)
- ・ 連携 (全ての技術士を覚醒させるために)

### ● 通奏低音 : Competency

- ・ 福島反省 (住民目線、社会目線)
- ・ 安全文化醸成と技術者倫理 (公益確保)
- ・ 社会とのコミュニケーション

## 原子力・放射線部会の活動例 (情報発信)

社会のニーズを考えた情報発信～求められる情報は何か～



### 月刊PE (月刊技術士) による情報発信

- 福島廃炉、オフサイトに関すること
- 安全文化、安全確保に関すること
- 部会/部会員の活動 等



⇒ 他部門の技術士へ  
⇒ 社会へ  
… 情報とメッセージ

## 2019年度以降の月刊PEによる情報発信

号	月刊PEタイトル
2019.5	技術者倫理の講師が備えるべき能力・資質
2019.7	原子力・放射線部門とSDGs
2019.8	大飯発電所と訓練施設の現地視察 報告
2019.10	社会から求められる原子力・放射線分野の人材とその育成
2019.11	原子力界のコミュニケーションに関する一考察
2019.12	PE INTERVIEW (阿部氏)
2020.12	原子力事業を取り巻く廃棄物問題について考える

## 原子力・放射線部会の活動（ホームページによる情報発信） 部会活動～皆さんに知ってもらいたいこと



**部会長からのメッセージ**

2年前、部会長を拝命するにあたり、科学技術学術審議会答申に示された『原子力・放射線部門の技術士像を具現化すること』、それを、『技術士（原子力・放射線部門）のブランドイメージとして社会から認知してもらうこと』を目標と記しました。福島第一原子力発電所の事故の後、原子力に関わってきた者として、どうしても技術士を社会のために活かすことが出来るかを参事会長と協議し、『professional engineer (PE)の原点に帰ること』としましたのである。

形の見えない目標に対し、この2年個人に対する部会の役割の明確化、「目」として3つの方針を取り組んできました。一つは学びの動機づけと学びの場としての役割、二つは学びの動機づけと学びの場としての役割、三つは学びの動機づけと学びの場としての役割。



**行事予定のアナウンス**

●部会主催・部会共催、協力行事

開催時期	CPD行事概要 (最終更新日2019.2.24)
2019年4月	<b>「原子力・放射線部会 新技術士講習会(一次・二次合格者合同)日本原子力学会教育委員会技術者教育小委員会、日本保健物理学会共催(予定)」</b> 第二次試験の合格者には、これから技術士として業務を行っている際のCPDを中心とした講義や考え方を、また第一次試験の合格者にはFDの考え方にともなって二次試験を目指した学び方を、技術士制度改革の流れと技術者としての進道を通じたキャリア形成を踏まえて一緒に考えるための講習会です。今年度以前の合格者の方も参加できます。

日時:2019年4月12日(金)13時半～17時(終了後、別会場にて懇親会)  
場所:榊原厚生会館211会議室(〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-6)

内容:  
・ご来賓よりの合格後者と合格者の期待  
・技術士制度の在り方とその国際的な位置づけについて(技術士Competencyを含む)  
・日本技術士の活動と原子力・放射線部会の活動について  
・技術士登録、継続研修(CPD登録を含む)AFPEG エンジニア・FEA 国際エンジニア取得方法等  
・質疑応答(ご質問の多い項目を中心に)

**活動協力依頼 (活躍の場の提供)**

技術士制度試験講習会、協力有志募集中  
終了しました

日本原子力学会より、第4回技術士制度試験講習会の開催に際しての協力依頼がありました。スタッフとして協力頂ける技術士有志の方を募集しています。

出部会として、技術士登録に向けた活動を開始していることより、技術士としての積極的な協力を検討下さるようお願いいたします。協力頂ける方は下記要領でお返信下さい。

【日時】2019年9月4日(土)13時～17時  
【場所】一社(原子力安全推進協会(東京都港区))  
【担当】関係コーディネーター(コースに分かれての受講者の6人対応)  
【募集】※応募要領

資料・論文情報 (成果共有)

# 原子力・放射線部会の活動（部会報）

部会員向け：活動紹介、考えてほしいこと等のメッセージ

**メッセージを含めた  
巻頭言**

**会報**

～技術士の認知度向上と技術士増に向けて～

巻頭言  
『技術士＝プロフェッショナルエンジニアの力を発揮しよう!』

**会報**

～技術士の自律とは何か～

巻頭言 『技術士（者）の自律』

**部会員の活動事例**

大学・大学院への技術士制度説明会  
S 幹事 井口 幸弘

技術士制度の認知度向上と技術士資格保有者の増員に向けて、2016年4月より、原子力関連の学部、学科、大学院の学生を主な対象とした技術士制度説明会を、学生ガイダンス等の場を借りて実施しております。

2018年3～4月には、別表に示すように、11大学を対象に12回以上の説明会を実施し、500名を超える参加者がありました。また、昨年度と比較

**度向上活動**

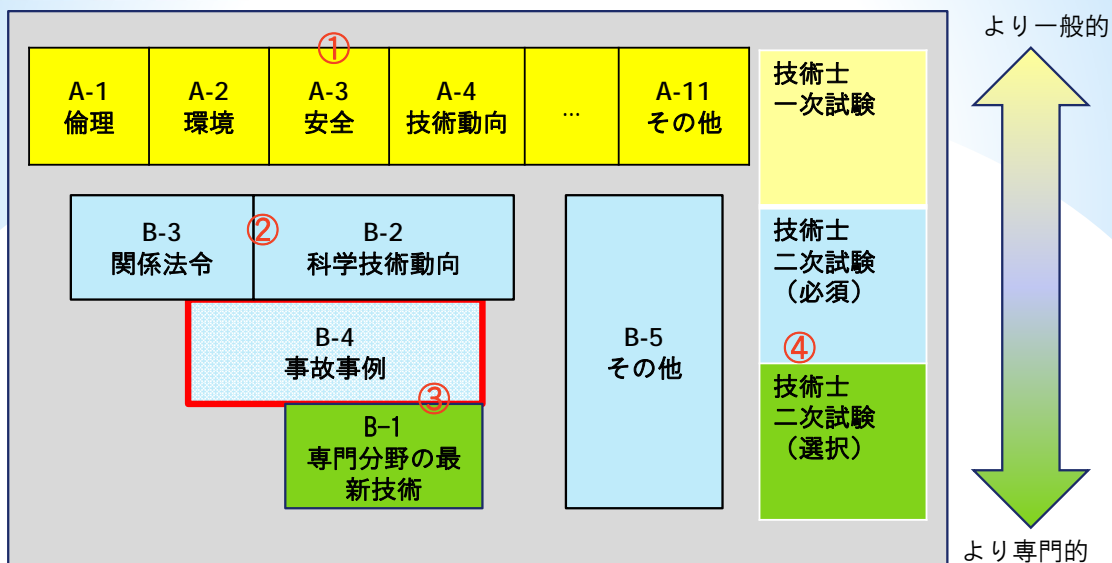
**委員会活動**

(1) 全体会議 実施報告  
平成30年9月15日、第1回全体会議が開催されました。出席が中心となり、出席者への出席に協力していただいたお礼の言葉を述べ、改めて謝意を申し上げます。

(2) 特別講演会 聴講報告  
『日本の原子力利用の課題と人材育成』  
平成30年度特別講演会には、東京電力の役員を委員長とする「日本の原子力利用の課題と人材育成」をテーマに講演を行いました。なお、事前に、講演会開催の趣旨の周知と関係者より講演の依頼があったこと、講演の「優秀な人材」に絞ること、能力と誠実さを兼ね備えた人材となるためにはどうすればよいかを考えた。講演会が実施されることを聞いていただいた。以下に、講演の概要を紹介する。なお、講演資料、講演の録音についてはホームページを参照してください。  
講演の要旨  
原子力委員会の役割の中で「原子力利用に関する政策に関すること」を最重点に位置付けており、原子力利用の推進と並んでの重要施策とする。2018年7月、原子力政策大綱に定めるものとして、原子力利用に関する基本的考え方」を策定した。5

# 原子力・放射線部会の活動（継続研鑽支援）

計画的な学び直し～何を学ぶべきか～



- 原子力・放射線部門技術士に求められるコンピテンシーを意識し継続研鑽を推進**
- ① 一般と原子力の接点～連携を意識（安全、リスクミ等）
  - ② 専門家としての理解が求められる時事問題（再稼働問題、廃止措置、規制（安全文化、検査制度含む）など）
  - ③ 事故のことを忘れない、事故の本質～現場の状況／課題等を学ぶ
  - ④ 技術士試験対策、解説とつながる魅力ある企画

## 2019年度以降の原子力・放射線部会CPD企画

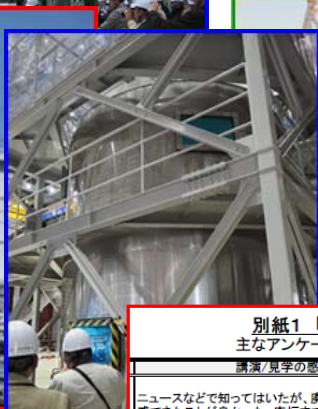
実施時期	実施No	内容	講師	
2019.6	特別講演	原子力の信頼とは 社会と技術の接点を見直す	JASTJ	小出 重幸氏
2019.7	第65回	原子力施設の自然災害対策について考える	防災研	藤原 広行氏
2019.9	第66回	原子力損害賠償法の改正と残された課題	法政大	高橋 滋氏
2019.10	見学会	六ヶ所・原燃サイクル施設	—	
2019.11	第67回	高レベル廃棄物の地層処分に関する科学的特性マップ	NUMO	兵藤 英明氏
2020.1	第68回	J-PARC MLFにおける物質・生命科学研究の現状	JAEA	曾山 和彦氏
2020.1	見学会	リプルンふくしま（北関東地区）	—	
2020.12 2021.1	第69回	放射線利用としての核融合	QST	鎌田裕氏

## 現場を見て学ぶ～平成28年度見学実績から～

福島第一

楢葉遠隔技術開発センター

東海第二発電所



別紙1 「東京電力(株)福島第一原子力発電所」見学会アンケート一覧  
主なアンケート結果(寄せられたアンケートのうち、参加者より掲載の了解が頂いた方、お名前掲載の方は匿名としました。)

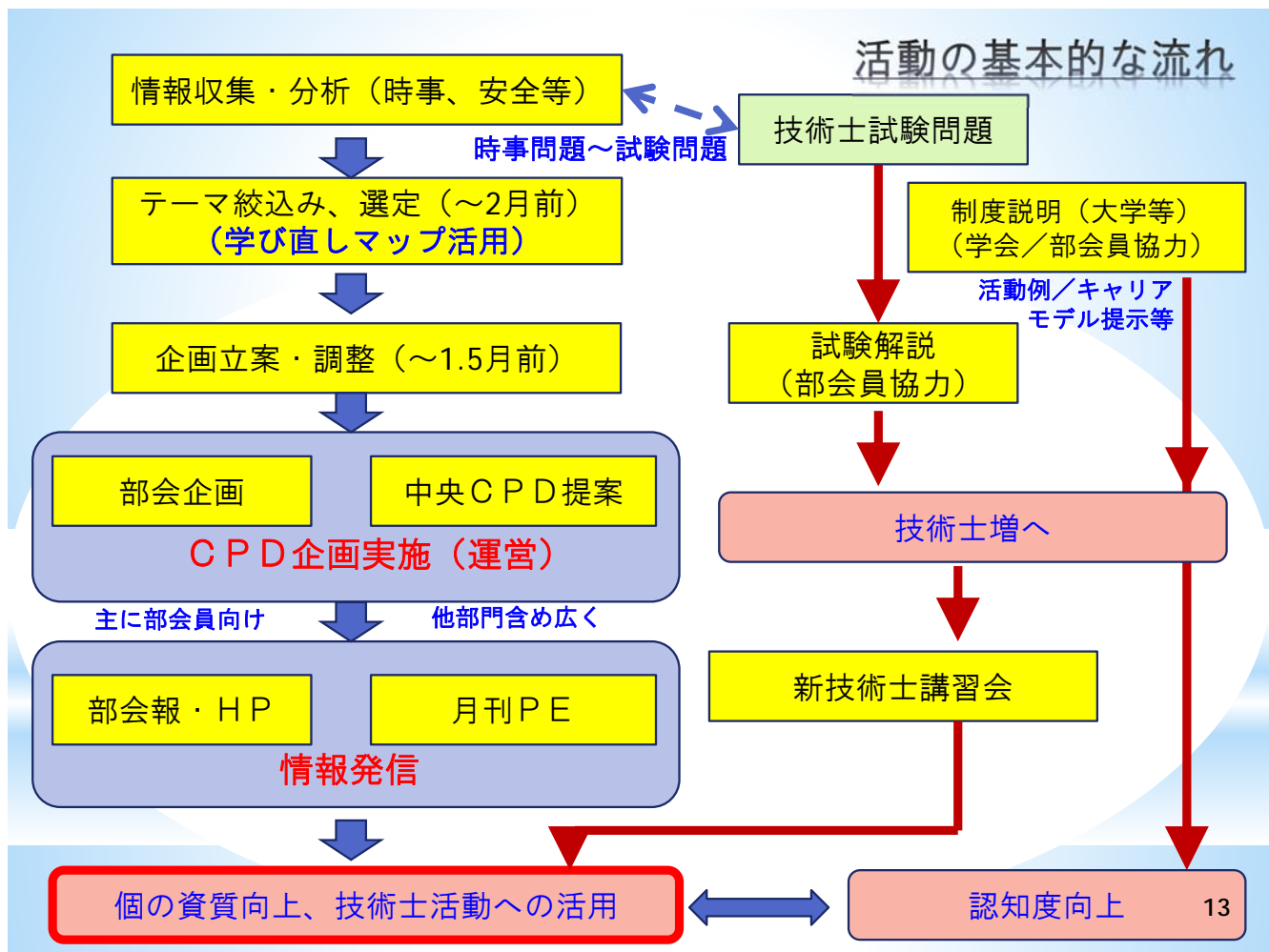
講演/見学の感想等	東日本大震災5年目の企画	告知/HP情報の不足等	会場/インシ
ニュースなどで知ってはいしたが、廃炉に向けた作業が実感できたことが良かった。廃炉まであと30年かかるというスケジュールができてきているのだろうか。	企画は節目として、行うべきと思う。福島第一原発の見学も有意義であるといえる。	人数制限の有無によって違うが、人数制限のないものについてはもっとPRしたほうが良い。	充分と思いが良い。
例えば、鉄塔の倒壊は耐震NGではなく、上流からの土石流により足元をすくわれたからと聞いた。一般的な報告では耐震クラスが低いからという話になっている気がするが、このような教訓(具体的な原因・分析など)を他事業者やプラントの設計反映、情報共有が必要と思いました。	この活動を継続し、どのように改善してきたのかを次の5年、10年、15年としっかり見て伝えて行くのがいいと思います。	こういった企画をふやしていく。	特に無し
福島第一の見学: 廃炉技術も大変だが汚染水対策(除染、保管)に相応な資金を働いているという印象。			
放射線境界の空間No.2について、見学しこんな状況で異常放出を稼いでいる状態で、10μSv/hの環境改善対策を実施しているの伏線、表土の除去、遮へい壁の設置などについてPR不足。			

質問事項(事前・追加)  
検討・集計

アンケート集計・評価  
次回企画への反映検討


[http://www.engineer.or.jp/members/c\\_dpt/nucrad/topics/003/attached/attach\\_3275\\_6.pdf](http://www.engineer.or.jp/members/c_dpt/nucrad/topics/003/attached/attach_3275_6.pdf)

[http://www.engineer.or.jp/members/c\\_dpt/nucrad/topics/003/attached/attach\\_3275\\_2.pdf](http://www.engineer.or.jp/members/c_dpt/nucrad/topics/003/attached/attach_3275_2.pdf)



企画検討例

安全文化と技術者倫理を学び直す



公益社団法人 日本技術士会  
The Institution of Professional Engineers, Japan



## 安全文化フォーラムディスカッション ～議論の深化を目指して（H27年度）～

第43回例会（講演と意見交換会）2015/1/16  
「原子力産業界における安全文化醸成（活動）の状況（JANSI 浜田氏）」

第48回例会（講演と意見交換会）2016/1/15  
立場の異なる4名の講演

- 言葉の定義、QMSとの関係、安全文化の測定、技術者倫理との関係、規制/事業者の関係等の多様な話題と意見の存在
- 抽象論から具体論へ展開

⇒自由で継続的な議論の必要性を認識

**【安全文化フォーラムディスカッション】**  
**技術士資格を媒介⇒ 組織の垣根（規制/事業者/メーカー）を越えた対等、自由、継続的な議論を可能にする。**

《メンバー》 技術士を中心に、問題意識を共有する者

《テーマ》 議論の過程で新たに設定（チェーンディスカッション）

《ねらい》 持続的かつ継続的に取り組むことで、問題意識を共有し、安全文化醸成に寄与する。

《対外発信》 自由な議論を阻害しないよう、その都度、発言者と相談し決定する。

《頻度》 さまざまな議論、数多く実施することを目標～年に4回程度

14

# 部門別コンピテンシーWG

～原子力・放射線部門の技術士に求められるコンピテンシーとは～  
(H30年度)

技術士制度改正の意味を理解し、広く紹介するための検討を行う

- ・ 技術士制度改正の本質的意味の理解（コンピテンシー導入とキャリアプランの考え方）
- ・ 原子力・放射線分野にとってのコンピテンシーの意義の理解

⇒ 大学生、技術士を目指す人、及び説明者（技術士自身）の理解を促す

2つのアプローチ

技術士コンピテンシー7項目+1  
①専門の学識、②問題解決、③マネジメント、④評価、⑤コミュニケーション、⑥リーダーシップ、⑦技術者倫理、⑧継続研鑽

① 制度改正の意味を説明するためのコンテンツの作成（標準説明資料、パンフレットの作成）

原子力学会:3月末  
大学説明会:4月初で活用

② 部門別コンピテンシーの作成：技術士コンピテンシーを、原子力・放射線分野における具体的な表現への翻訳と特徴的な項目の抽出

炉・サイクル・放射線関連の既存文書から、該当項目を抽出。5月中を目途にHPで公開



## S幹事制度～特定案件の対応協力が可能（活躍の場）～ 〔役員と同等の情報を共有可能〕（応募制）

S幹事という名は当部会特有の俗称

⇒ Special、Support、Senior、Skype（地域との連携）…

**役員**の職務を特別に補佐する部会員

より多くの部会員に活躍して欲しい～地方からでも参加しやすい  
(制約のある個に対して活動し易さを提供する部会からの一支援)

下記の他、部会と本部との連携を担う各種委員会の委員としての協力も可能

### S幹事活動例 2



試験制度説明会の準備、調整、運営への協力

学会連携に係る調整・協力

大学説明会の対応協力

試験制度説明協力

### S幹事活動例 1

企画検討に有用な学会誌情報の収集、独自の視点からの分析と、それに基づく講演会等の企画提案

時事問題の情報収集、分析等に係る検討・提案等

表-1 福島第一原子力発電所の廃炉について 原子力学会誌(ATOMS)の記事のまとめ

No.	氏名	所属、経歴他	学会誌(神谷メモで要約ではない)
16	井上正	[ATOMS]	2015(1月号)理事会より学会の福島復興へ貢献する【背景】IFの廃止措置は、かつて経験のない技術的な課題を伴って実現にむき直さなければならない。【課題】原子力分野の専門集団として「福島第一原子力発電所廃炉検討委員会」の設立、副委員長(関村直人、同本幸司)の選出、①タンク増設等、②使用済み燃料の安全管理改善、③人材確保育成の計画管理手法の検討「プロジェクト」が設けられ、④安全管理についての類似事例の調査、⑤安全管理の必要性がある、⑥安全管理の推進、⑦安全管理の推進、⑧安全管理の推進、⑨安全管理の推進、⑩安全管理の推進



# 原子力・放射線部会の活動（認知度向上／技術士増の取組み） ～大学説明の拡大、原子力学会ブース開設（H30）～

大学生、社会人それぞれのキャリアに応じて技術士をアピール

**原子力関連学部学科・大学院への技術士制度説明会**  
 ▶ 13大学を対象に14回の制度説明会。約270名の参加者あり

No.	大学名	日付	時間	対象者	参加学生数
1	近畿大学	3/5(月)	15:00～16:30	3年生～大学院生(M1)	8
2	東北大学	4/3(火)	15:20～15:45	大学院生(M1)	50
3	東海大学	4/3(火)	-	学部1年生	37
4	〃	4/5(木)	-	学部2～4年生	120
5	九州大学	4/4(水)	14:00～14:30	大学院生(M1、D1)	30
6	東京工業大学	4/4(水)	16:45～17:00	学部1年生	40
7	京都大学	4/5(木)	11:30～11:50	大学院生(M1)	22
8	福井工業大学	4/5(木)	11:40～12:10	学部2～3年生	35
9	茨城大学	4/5(木)	16:00～16:30	学部1年生	93
10	福井大学	4/5(木)	16:25～16:40	大学院生(M1)	18
11	名古屋大学	4/6(金)	11:30～12:00 13:00～13:30	学部2～3年生 大学院生	40 20
12	長岡技術科学大学	4/9(月)	13:15～14:15	大学院生(M1)	12
13	早稲田大学	6/9(土)	13:40～15:10	学部、大学院生	13



大学での説明会の状況

**原子力学会、春の年会（茨城大）でのブースの設置**  
 ▶ 社会人中心50名が立寄り。制度説明及び資料手渡し。

会合	場所	月日	対象者	参加人数
原子力学会 春の年会	茨城大学 水戸キャンパス	3/20(水)～22(金)	年会参加者 (社会人+学生)	3日間 合計50名 (社会人41+学生9)



学会ブースの状況 17

# 原子力・放射線部会の活動（認知度向上／技術士増の取組み） ～技術士に求められることは何かを考えたパンフレットの制作～ ～分かりやすいキャリアモデルと求められるコンピテンシー～

**原子力・放射線部門の技術士として目指すもの**

原子力業界の社会からの信頼回復に  
技術士として誇りを持って社会に貢献

- ・平時は、技術士個人の学び直し
- ・人材育成やコミュニケーション活動
- ・緊急時には、各分野の専門家として
- ・現地のプロボノ活動や後方支援

**I. 安全文化醸成に資する活動**

3.11事故の反省・教訓を風化させない働きかけ

安全文化の理解と促進、住民目線のリスクコミュニケーション

**II. 部会員の技術士活動の支援**

技術士の資質の維持向上(学び直し)のための支援

活動基盤づくり(連携、輪読、活用)

**コンピテンシーとは**

項目	要求される具体的能力
専門的学識	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 専門知識を理解・応用</li> <li>● 法令等の制度、社会・自然条件等に関する専門知識</li> </ul>
問題解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 問題発生要因や制約要因を抽出し分析すること。</li> <li>● 解決策を合理的に提案、改善</li> </ul>
マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 要求事項の特性を考えた、人員・設備・金銭・情報等の資源を配分</li> </ul>
評価	成果やその波及効果を評価
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 雇用人、上司、同僚等との意思疎通</li> <li>● 現地の社会的文化的多様性を理解、協調</li> </ul>
リーダーシップ	関係者の利害等を調整し
技術者倫理	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公衆の安全、健康、福利を最優先に考慮した上で、社会、文化及び環境に対する影響を予測し、地球環境の保全等、次世代に渡る社会の持続性の確保に努めること。</li> <li>● 関係法令等の制度を遵守</li> <li>● 自らの業務及び責任の範囲を明確にし、これらの責任を負うこと。</li> </ul>

技術力だけでなく、人と社会のための研究者・技術者の業務に必要なことばかりだ。

この資格の要件を満足するように、目標を立てて、日々業務に取組み努力していくと、いつの間にかその力が身につけるはずだ。

**技術士試験の何が変わる**

法律(技術士法第2条)は変わらないが・・・  
**試験がコンピテンシーを問うものになる**

技術者のライフステージを5段階に分け、  
**技術士をレベル3に据えた**

**可故、変わる**

海外と同じ基準、海外並みの合格者(人数、合格年次、位置づけ)を目指す

年次: 合格者の平均年齢43歳⇒35歳 海外並みに(成長の素質を問ひ、経験は後からでもよい)

位置づけ: 科学技術に関する高度な専門能力と技術者倫理を国に認められた**最も権威ある資格(GOAL)**から

プロジェクトを任せられる優秀な技術者の証として、**資格を活用するSTART**へ

人数: 日本約9万人、米国80万人、英/加/印:各20万人

# 部会員とのコミュニケーションの充実

- 部会員、S幹事 ⇒ 役員会
  - ・ 部会員の役員会へのオブザーバー参加
  - ・ 部会員から役員会への情報提供  
(例会テーマ/講師選定のための学会誌執筆者情報の整理)
  - ・ S幹事からの情報提供  
(関連学協会のシポジウム/WS等の情報の定期的な供与)
- 役員会 ⇒ 部会員、S幹事
  - ・ WEB中継システムによる例会の配信
  - ・ 例会のストリームオーサー/カムタジアスタジオ収録、講演資料の掲載、詳細レジユメの掲載(会員サイト)
  - ・ 本部移転に伴いスカイプ導入予定
  - ・ 役員会もWeb会議の導入を計画
  - ・ 就職斡旋情報等の掲載、見学会情報等の限定掲載
  - ・ アンケートのHP掲載や執筆者との個別コミュニケーション



## 部会が目指してきたもの(2つの見える化)

### 部会目標の見える化

ブランドイメージと個人のレベルアップ

- ・ 個の力を示さないと技術士は増えない
- ・ 技術士資格活用の制度化待ち⇒自らの活動による価値の提示・向上への意識改革⇒コンピテンシーの向上

### 技術士ブランド【個の要素】

- 高い倫理観を示せたか。組織に埋没していないか。
- 社会との接点があったとき、適確に状況を説明できたか。分かりやすく解説したか。(1Fの状況、施設の安全性等)
- 高等の専門的応用能力を示し複合的問題を解決する等により、組織内で存在価値を高めたか。
- 最新の技術、情報を学び続け、見識を広げ、深めたか。

あなたはできてますか?

さすが技術士!

### 部会活動の見える化

部会目標と今の活動の位置づけをつなぐ

### 【部会活動は個の技術士の支援】

- コンピテンシー向上のためのCPD企画全体構造の提示(学び直しマップ、CPD/情報発信の一体化)
  - ・ 時事問題と個の活動に必要な情報に係るテーマ選定・学び
  - ・ 時事解説+姿勢/哲学を社会へ発信!  
⇒技術士の価値の提示  
⇒認知度向上
- 制度説明会等を通じた技術士増認知度向上の取組み等  
…その先に技術士資格活用の制度化をみて…

**技術士として求められていることは何か？  
もう一度振り返って、共に頑張っていきましょう！**

部門設立時（H16）の声より

- 職場の中で**高い技術力、倫理意識**を醸成（制度の有効性）
- 組織における高度な技術者として**国民の信頼を得る役割**
- **中立的な立場**で原子力・放射線を論評
- **社会的意思決定の場への参画**（中立的立場での情報提供する専門家）
- 安全上の解析書類の**審査・レビュー、検査・品質保証等**への関与 等

「今後の技術士制度の在り方について（H28.12.12）」〔科学技術・学術審議会 技術士分科会〕より

■ **技術士に求められる資質能力（コンピテンシー）**

専門的学識、問題解決、マネジメント、評価、コミュニケーション  
リーダーシップ、技術者倫理

■ **技術士としての資質能力を向上させるステージの技術者像** ←

- 専門分野：豊富な実務経験、専門的学識、高等の専門的能力、豊かな創造性⇒複合的な問題を発見して解決できる技術者
- 複数の技術分野を通して分野全体を俯瞰できる技術者
- 技術者を適確に指導できる技術者
- 国内トップレベル、国際的に通用する技術者

参考資料

## 平成29年度の月刊PE（月刊技術士掲載記事）

号	月刊PEタイトル
2017. 4	• 新たな <b>技術者倫理教育</b> に向けて
2017. 11	• <b>女川原子力発電所</b> の事例に学ぶ（部会CPD関連）
2017. 12	• <b>福島高等学校</b> スーパーサイエンス部放射線班として東人大震災後の取り組みで学んだこと（部会CPD関連）
2018. 1	• <b>原子力・放射線部門の活動</b> と将来展望
2018. 2	• <b>島根原子力発電所</b> 機器故障予兆監視システムの開発について（部会員から）
2018. 4	• VR技術を応用した <b>福島第一原子力発電所の廃止措置</b> への挑戦（部会CPD関連、部会準会員から） • 原子力・放射線部門における <b>技術士の認知度向上</b> と技術士増に向けた取り組み
<b>関連</b>	
2017. 10	• 福島が問う新しい「技術の安全」越智小枝氏

### 「過去10年を振り返っての今後の10年の活動方針（H26/6）より

#### 〔制度活用が期待通りでない原因〕

- **有資格者数の絶対数の不足（外的、内的要因）**  
～技術士資格活用を制度化できる状況にない
- **技術士資格の認知度・認定度の不足（外的、内的要因）**  
～組織内において技術士が高い技術力・倫理性を有するとの評価を得ていない  
～一般に対し技術士資格の知名度が低く技術士資格の活用がセールスポイントにならない
- **部会・個人の努力不足（内的要因）**  
～部会活動の目標が不明確、アクションプランがない  
～部門技術士個人の組織内外での存在感を示す努力不足
- **3. 11事故の影響（外的要因）**  
～原子力事業の停滞  
～原子カムラへの社会の不信
- **許認可体制の壁（外的要因）**  
～審査・検査の第3者機関への移管が困難